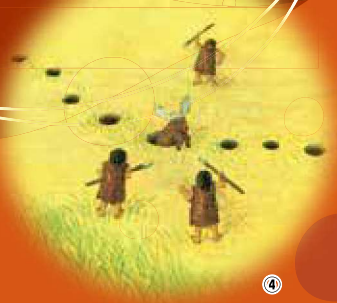




愛鷹・箱根西麓の
石器とくらし
旧石器文化とその周辺



富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会

①休場遺跡 石囲炉 ②中見代第Ⅰ遺跡出土 局部磨製石斧・敲石 ③山中城E遺跡出土 尖頭器 ④陥し穴を使った狩りの様子(イラスト部分)

はじめに

みなさんは、富士市・沼津市にまたがる愛鷹山あしたかやまや三島市にかかる箱根西麓せいろくに、県内でも数多くの旧石器時代の遺跡いせきがあることを知っていますか。

愛鷹・箱根西麓には、約38,000年前こころ頃から人が住み始めていることが分かっており、遺跡からは多数の石器（石の道具）の他、旧石器時代では珍しい陥し穴や、石で囲って作った炉（調理場）といった生活の痕が見つかっています。

このパンフレットでは、愛鷹・箱根西麓の旧石器時代についての解説をするとともに、1979年に日本で初めて旧石器時代の遺跡として国指定史跡しせきとなった休場遺跡やすみばについて紹介します。

1 旧石器時代ってなんだろう？	1
①旧石器時代とは	
②旧石器時代の道具～石器とは～	
2 愛鷹・箱根西麓の旧石器時代	3
①富士・沼津・三島市の旧石器時代はどんな様子？	
②遺跡の分布	
③見つかった石器	
④狩りの工夫～陥し穴猟～	
⑤移動と交流	
3 日本で最初の旧石器時代国指定史跡～休場遺跡～	14
①休場遺跡とは？	
②休場遺跡の価値	
③休場遺跡と同じ頃に使われた石器	
おわりに・掲載資料一覧	18
用語解説・参考文献	19

凡例

- 資料の所蔵機関は巻末（P.18）の掲載資料一覧に記載した。
- 本冊子に掲載した写真の提供機関はそれぞれの写真に付記した。特に記載のないものは、富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会の担当者が撮影した。
- *を付した石器の名称や石の種類などについては巻末（P.19・20）に用語解説を設けた。
- 石器や出土遺物のネームに付されているマークは ◆愛鷹山所在（沼津市）、◆箱根山西麓所在（三島市）の遺跡から出土したものを意味する。

協力者（敬称略、五十音順）

阿部朝衛、石井礼子、神取龍生、笹原芳郎、白石浩之、前嶋秀張
国立歴史民俗博物館、明治大学博物館

1 旧石器時代ってなんだろう？

①旧石器時代とは

今から約38,000年前、大陸から日本列島へ現生人類（ホモ・サピエンス）がやってきました。彼らの生活の痕跡の多くは、さまざまな形に加工された石器として見つかるため、彼らが列島にたどりついて以降、縄文文化が登場するまでの時代を「旧石器時代」と呼んでいます。

旧石器時代は、地球の歴史の上では「最終氷期」と呼ばれています。地球上には温帯地方まで氷河が発達する「氷期」と、高緯度地方に氷河が後退する「間氷期」が繰り返しおとずれており、人類が列島へたどり着いたのはその最後の氷期にあたります。

そのため海水面は現在より低く、列島は大陸性気候（気温が低く、乾燥した気候）におおわれていました。陸上には針葉樹林が広がり、ニホンジカやイノシシ、ノウサギなどの小～中型動物のほか、バイソンやナウマンゾウといった大型動物も生息していました。当時の人々は、こうした食料となる獲物を追いかけて移動する日々を送っていました。

日本の旧石器時代の遺跡からは、いくつもの石器作りの場が、連なった状態で見つかることがあります。ここから見つかった複数の石器は、断面がぴったり合うことから同じ時期に作られたと考えられます。

そこには、図1のようなキャンプ地があったと推測されています。こうしたキャンプ地では、石器作りや動物の解体、衣服などを作るための皮の加工をしていたと考えられています。



図1：旧石器時代はじめ頃のキャンプで生活する人々の様子

(石井礼子氏画 国立歴史民俗博物館提供)

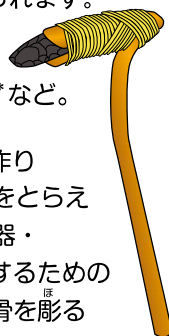
②旧石器時代の道具～石器とは～

旧石器時代の人々は、さまざまな形の石器を使っており、時期によって主に使われる石器が変化していきます。旧石器時代の初期には、**台形縁石器***や**磨製石斧**などが多く使われ、その後、**ナイフ形石器***、**尖頭器***、**細石器***へと形状を変化させていきます。人々は、目的に応じた素材の石を選び、形状も変えて使っていました。

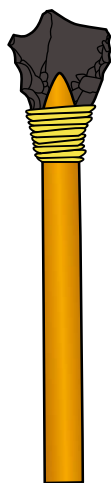
石器は、作り方によって大きく以下の3つの種類に分けられます。

「石核石器」 …石の一部を割って作る石器。木の伐採や加工、土木作業を行うための**局部磨製石斧**など。

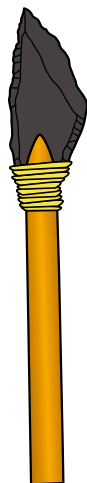
「剥片石器」 …石に強い力を加えて剥片*（石のカケラ）を作り出し、それをさらに整えて使う石器。獲物をとらえるための**台形様石器**・**ナイフ形石器**・**尖頭器**・**細石器**、皮をなめしたり肉を搔き出したりするための**搔器***、木や骨を削る・切るための**削器***、木や骨を彫るための**彫器***など。



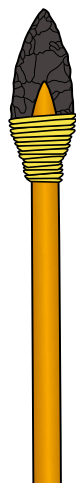
局部磨製石斧



台形様石器



ナイフ形石器



尖頭器



細石器



搔器・削器



彫器



叩石・台石

「礫石器」 …石に手を加えずそのまま道具として使う石器。石器の製作や食材をつぶす際にハンマーとして使う**叩石***、石器を作る際に台として使う**台石***など。

2 愛鷹・箱根西麓の旧石器時代

① 富士・沼津・三島市の旧石器時代はどんな様子？

愛鷹東南麓（富士市・沼津市）と箱根西麓（三島市）は、磐田原台地（磐田市）とならび、旧石器時代の遺跡が集中している地域です。

現在、愛鷹山と駿河湾との間には浮島ヶ原低地と呼ばれる低地が広がっていますが、この時代の愛鷹山は、山裾がそのまま駿河湾に沈みこんで海岸になっていました。

愛鷹東南麓の地層は愛鷹ローム層と呼ばれ、富士山から噴出したスコリアと、草木が腐って堆積した黒色土で構成されています。また、箱根西麓の地層は箱根西麓ローム層と呼ばれ、愛鷹山と同様に富士山の火山灰やスコリア、黒色土で構成されています。両山麓の黒色土層からは、暖かい気候でよく育つメダケなどの植物が見つかっています。

日本列島が大陸性気候にあった中で、愛鷹山と箱根山は、気温の変化が比較的ゆるやかで暖かく、湿度の高い海洋性気候に覆われていたようです。愛鷹東南麓では、標高260～270mに立地する休場遺跡、箱根西麓では、標高580m付近を最高地点とする山中城遺跡以下のゆるやかな丘陵部に数多くの旧石器時代の遺跡が見つかっており、当時の人々にとって住みやすい土地であったと考えられています。

地層の特質がもたらすもの

一般的に土層中の石器などは人の活動や地震などといった自然現象によって、本来の時代ではない土層に紛れ込むことがあります。しかし、愛鷹・箱根西麓は硬いスコリア層があることで、石器が層をまたいで移動することがないので、各層の時代を生きた人々の生活の様子が当時のまま残っています。そのため、石器の時期ごとの変化が非常に分かりやすく、両山麓は日本でも有数の旧石器時代の研究の場となっているのです。



図2：愛鷹ローム層と時代の移り変わり

うえだしほた 植出北Ⅱ遺跡(沼津市教育委員会提供)

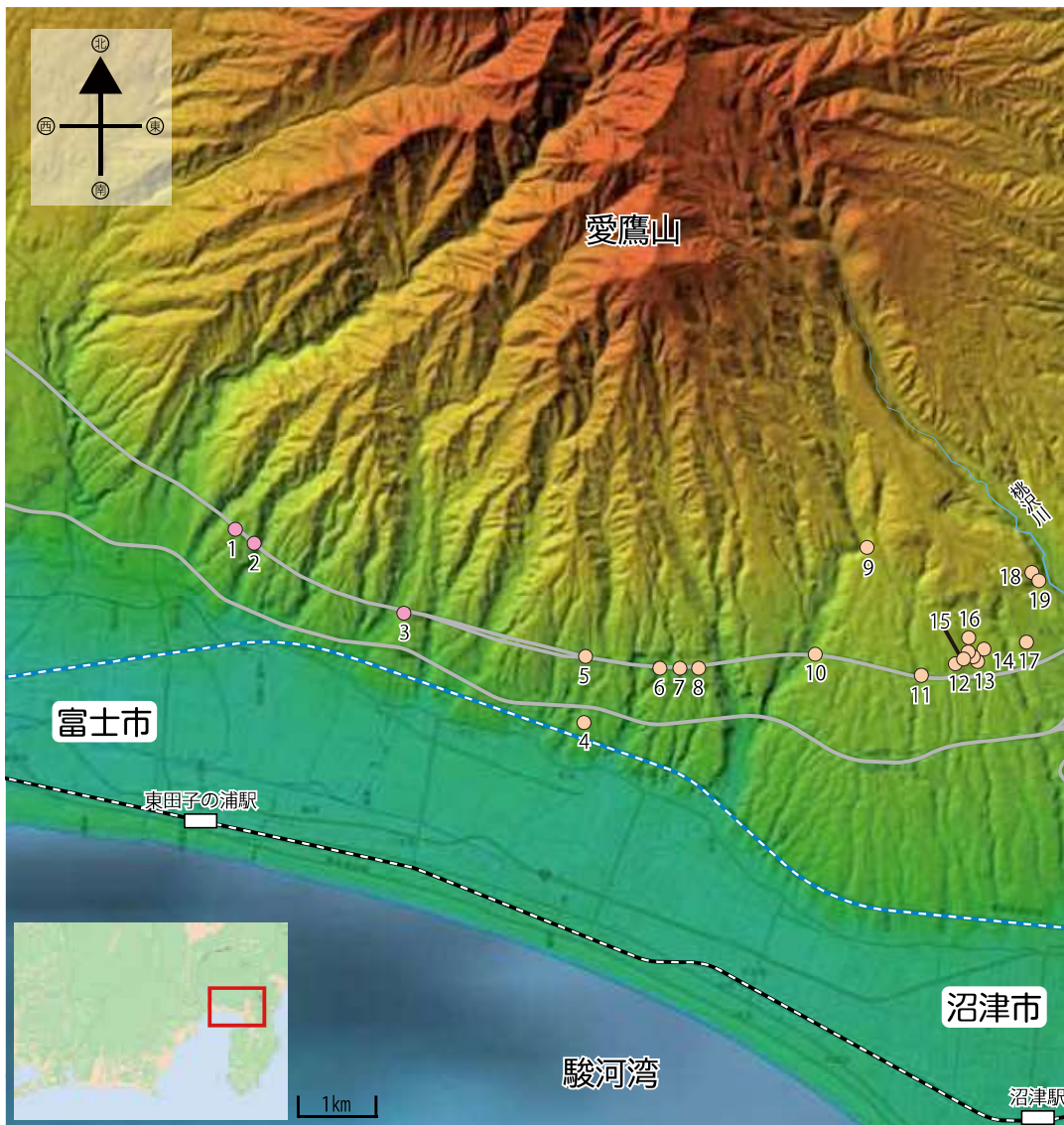


図3：富士・沼津・三島における旧石器時代の主要遺跡分布図

1: 天ヶ沢東遺跡 あまざわひがし ふるさど	9: 休場遺跡 やすみば もとの	16: 広合遺跡 ひろあひ	23: 台崎 A 遺跡 たいさき	31: 佐野片平山遺跡群 さの かたひらやま
2: 古木戸 B 遺跡 ふるきど やがわうえ	10: 元野遺跡 もとのもの	17: 清水柳北遺跡 しみずやなぎきた	24: 山中城 E 遺跡 やまなかじょう	32: 孫右工門洞(焼場)遺跡 まごえもんぼらやきば
3: 矢川上 C 遺跡 やがわうえ いであるやま	11: 八兵衛洞遺跡群 はちべえぼら にしぼら	18: 拓南東遺跡 たくなんひがし	25: 山中城跡三ノ丸 がんごうじ	33: 加茂ノ洞 B 遺跡 かものぼら
4: 井出丸山遺跡 いでまるやま こさかうえきた	12: 西洞遺跡 にしぼら なかみま	19: 尾上イラウネ・ 尾上イラウネ北遺跡 おののかみ	26: 願合寺 A 遺跡 がんごうじ	34: 五輪遺跡 ごりん
5: 小坂上北遺跡 こさかうえきた ふちがさわ	13: 中見代 なかみよ	20: 子ノ神遺跡 ねのかみ	27: 観音洞 B 遺跡 かんのんぼら	35: 笹原後 F 遺跡 ささはらしろ
6: 淵ヶ沢遺跡 ふちがさわ まとば	第I・第II・第III遺跡 ついでしきた	21: 初ヶヶ原遺跡 はつががはら	28: 観音洞 G 遺跡 かんのんぼら	36: 中村 C 遺跡 なかむら
7: 的場遺跡 まとば あきばやし	14: 植出北 II 遺跡 うえだしきた どてうえ	22: 生茨沢遺跡 はいらざわ	29: 下原遺跡 しもはら	
8: 秋葉林遺跡 あきばやし	15: 土手上遺跡 どてうえ		30: 北原菅遺跡 きたはらすげ	

：富士 ：沼津 ：三島



地形図：国土地理院地図発行（色別標高図）に加筆して作成

②遺跡の分布

愛鷹・箱根西麓の旧石器時代の遺跡は、河川により削られた丘陵地上にあります。遺跡のある場所の脇には小河川が流れていることが多く、生活に必要な水場の近くに遺跡が分布しています。

愛鷹山の遺跡は、一見、一直線上にあるように見えますが、これは、新東名高速道路の建設にともなって、多くの遺跡が発見されたためで、実際には、丘陵地全体にまんべんなく遺跡が点在していると考えられています。

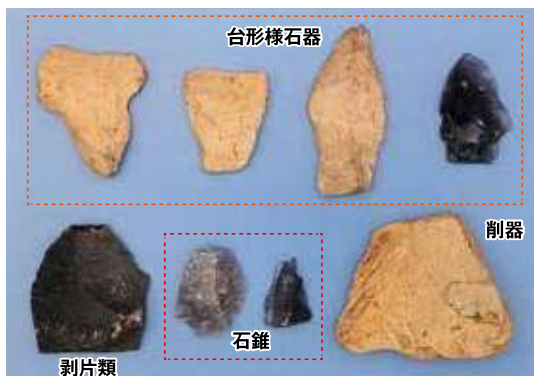
③見つかった石器

旧石器時代の初期段階の遺跡である井出丸山遺跡^{いでまるやま}や中見代第Ⅰ遺跡^{なかみよ}からは、黒曜石^{くわうせき}*などを素材にした台形様石器^{たいけいようせつき}や、凝灰岩^{ぎようかいがん}*を使った局部磨製石斧^{きよくぶませいせきふ}が多く見つかっています。その後、台形様石器は徐々に減っていき、旧石器時代の中頃^{ちゅうこう}には、山中城跡三ノ丸第一地点^{さんちゅうじょうせき}や山中城E遺跡^{さんちゅうじょうE}などから見つかった先端^{せんたん}をしっかりと尖らせて作ったナイフ形石器^{ナイフけいせつき}が多く出土するようになり、やがて尖頭器^{せんとうき}の出土が増えていきます。旧石器時代の終わり頃になると、淵ヶ沢遺跡^{ふちがさわ}などからも発見されている細石器^{さいせき}が多く使われるようになっていきます。

このことから、時期が下るにつれて、メインに使用する石器が台形様石器→ナイフ形石器→尖頭器→細石器へと変わっていったことが分かります。



◆中見代第Ⅰ遺跡 第Ⅴ黒色帯出土石器（局部磨製叩石・石斧）
沼津市教育委員会蔵



◆井出丸山遺跡 第Ⅳスコリア～第Ⅶ黒色帯 出土石器（台形様石器・石錐^{いしきり}*・削器^{さつき}・剥片類^{はくへんるい}）
沼津市教育委員会蔵※高尾2011『井出丸山遺跡発掘調査報告書』より転載



ござかうえきた
 ◆左：小坂上北遺跡第Ⅶ黒色帯 出土石器（台形様石器）
 ◆右：淵ヶ沢遺跡第Ⅳ黒色帯 出土石器（台形様石器）
 沼津市教育委員会蔵



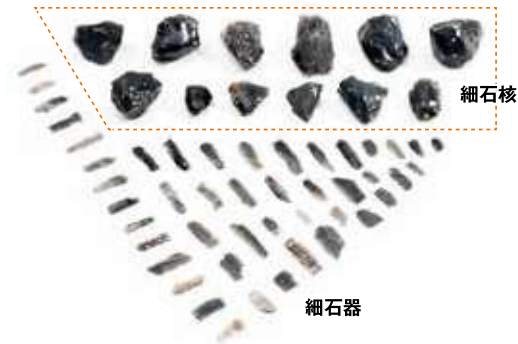
◆山中城跡三ノ丸第一地点 休場層出土石器（尖頭器・ナイフ形石器）
 三島市教育委員会蔵



◆山中城E遺跡 休場層出土石器（ナイフ形石器）
 三島市教育委員会蔵



◆初音ヶ原遺跡 休場層出土石器（ナイフ形石器）
三島市教育委員会蔵



◆澁ヶ沢遺跡 休場層・富士黒色土層出土石器（細石器・細石核）
沼津市教育委員会蔵



◆井出丸山遺跡第0 黒色帯～休場層出土石器
（ナイフ形石器・削器・石核*・叩石・細石核・剥片類）
沼津市教育委員会蔵

④狩りの工夫～陥し穴猟～

旧石器時代には、動物を捕まえる方法の一つとして陥し穴が使われており、愛鷹・箱根西麓でも陥し穴猟が盛んに行われていました。

陥し穴とは、追い込み猟や罾猟に使用された穴で、動物を捕まえるために丘陵上や尾根上に作られ、列島全体では縄文時代になってから本格的に使われるようになります。しかし、愛鷹・箱根西麓をはじめ、南九州や神奈川県などの一部の地域では、旧石器時代遺跡からも見つかっています。

愛鷹・箱根西麓では、1986年に旧石器時代遺跡である初音ヶ原遺跡第一地点から陥し穴が見つかりましたが、発見当初は、4つの穴が確認されただけで、それらが陥し穴とは考えられていませんでした。しかし、その後の調査によって総数60基もの穴が見つかったことで、並べて作った陥し穴と考えられるようになりました。

図4は、初音ヶ原遺跡で見つかった陥し穴を元に描かれています。遺跡の土の中に含まれる植物を調べた結果から、愛鷹・箱根西麓には、当時ススキや笹が生い茂っていたことが分かっており、陥し穴はススキや笹の間を抜けてきた動物が穴に落ちやすいように、列状に並べて作られたと考えられています。

また、狩場である陥し穴周辺からは石器が見つかっていないことから、人々は狩場と生活の場を分けていたことが分かります。



図4：陥し穴を使った狩りの様子

沼津市2005「沼津市史 通史編 原始・古代・中世」より転載

現在、愛鷹・箱根西麓の遺跡からは約31,000年前頃の陥し穴が186基確認されています。

両山麓で見つかる陥し穴は、径が1.3m前後、深さは1.4m前後あり、開口部は円形か不整形円で、断面はバケツのような形をしており、開口部付近がラッパ状に開いているものもあります。

この頃、両山麓の石器に使われている石材は、黒曜石の占める割合が高くなります。そして、日本各地で広く使用される信州（長野県）産のものよりも箱根畑宿産や天城（伊豆半島）産に偏るようになります。やや遠方にある信州産ではなく、近場で入手しやすい素材が選ばれた理由は、陥し穴管理などのために両山麓に長い間留まる必要があったためと考えられます。

なお、この時期は、各地を移動しながら生活していた旧石器時代の人々が、徐々に生活圏を確立させていく時期で、愛鷹・箱根西麓には暖かい気候に加え、海に近い平野部や丘陵・山岳地帯などの多様な地形が育む自然の恵みがありました。この環境は、管理のために長期的な滞在が必要となる陥し穴猟に適した環境でもあり、陥し穴は愛鷹・箱根西麓に暮らす旧石器時代の人々だからこそ使えた生活の知恵だったのかもしれませんが。



初音ヶ原B遺跡 陥し穴跡
三島市教育委員会提供



初音ヶ原遺跡 陥し穴断面図
三島市教育委員会提供

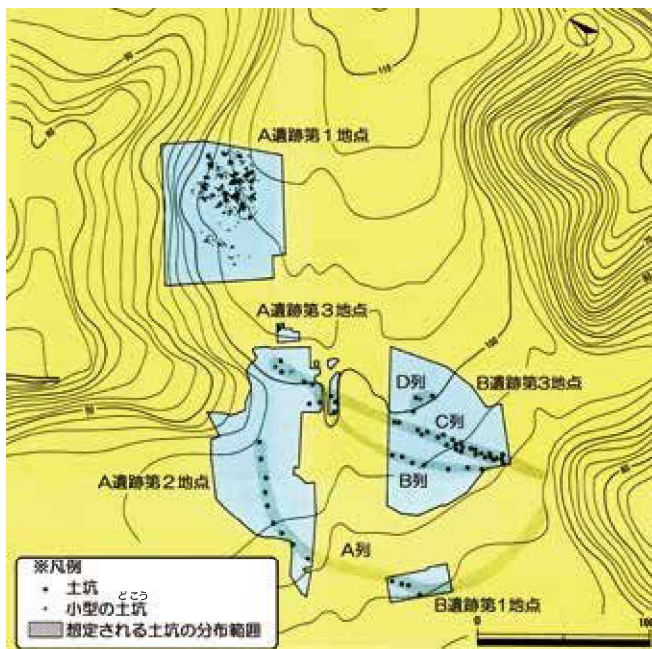
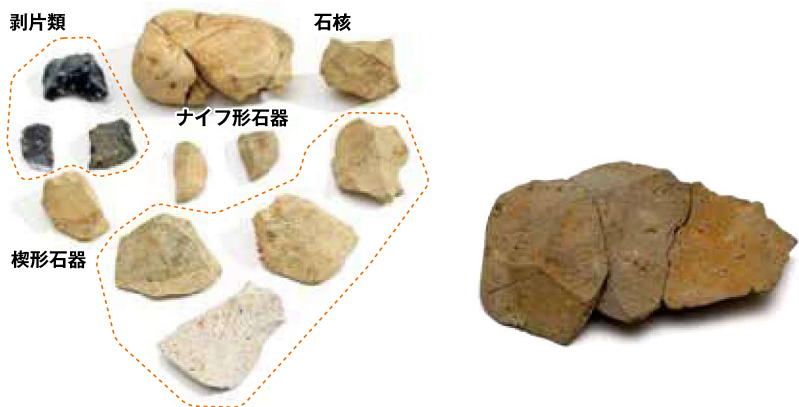


図5：初音ヶ原遺跡 陥し穴配置図

三島市教育委員会提供



◆ 淵ヶ沢遺跡 出土遺物

(ナイフ形石器・楔形石器*・剥片類・石核)

沼津市教育委員会蔵

◆ 初音ヶ原遺跡 出土遺物 (剥片)

三島市教育委員会蔵

⑤移動と交流

文字資料のない旧石器時代において、人の移動や交流を理解するためには、遺跡から見つかったりしている石器などから考える必要があります。現在見つかったりしている石器から推測すると、愛鷹・箱根西麓においては後期旧石器時代の初期(約38,000年前頃)から人々の活発な移動や他地域との関わりがあったことが分かります。

愛鷹・箱根西麓の遺跡から見つかる石器の素材の産地を見てみましょう。比較的近隣では、箱根山や天城産の黒曜石、箱根山や伊豆半島で産出されたと考えられる黒色ガラス質安山岩、富士川中～下流の河原で拾うことができる富士川ホルンフェルスがあります。一方で、少し遠方に目を向けると、信州(和田・諏訪・蓼科など)や伊豆神津島産の黒曜石、神奈川県西部で採集できる凝灰岩も多く使用されています。

特に井出丸山遺跡では、約38,000年前の層から見つかったりしている石器に、伊豆半島から海を渡ることによって入手することのできる神津島産黒曜石や、遺跡から約150km離れた岐阜県下呂市湯ヶ峰産の下呂石が使用されており、旧石器時代の初期段階から海や、山を越えて移動していたことが分かります。

また、観音洞B遺跡からは、黒曜石原石が穴に埋められた状態で発見されました。産地は不明ですが石器に適した石である黒曜石を何らかの方法で入手し、その貴重な原石を大切に保管していたことがうかがえます。

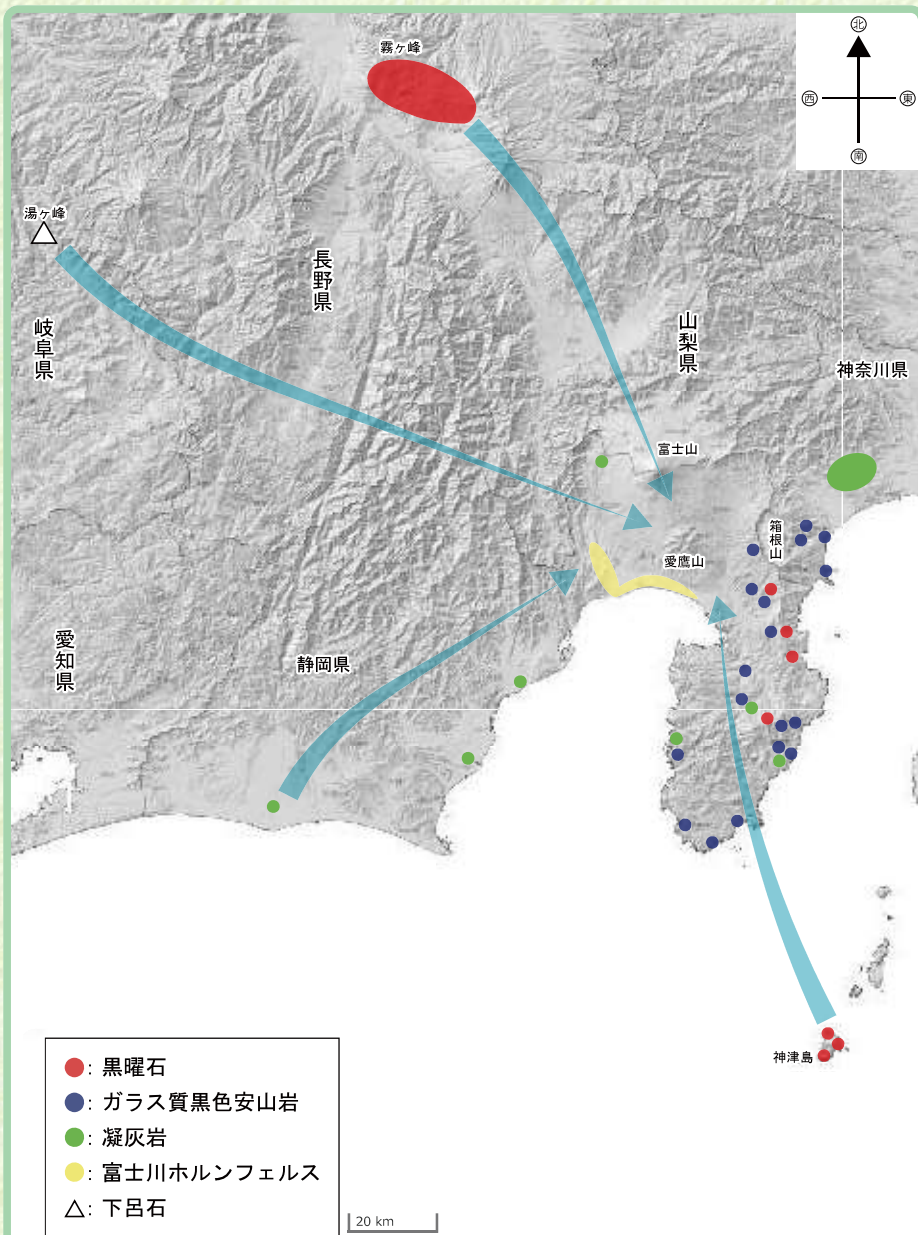
愛鷹・箱根西麓の遺跡から長野県で採れる黒曜石が見つかる一方で、長野県の遺跡からも神津島で取れる黒曜石を使った石器が見つかるなど、山や海、川を越えた交流が行われていたことが分かっています。



◆観音洞B遺跡出土 埋納黒曜石原石
三島市教育委員会提供



図6：黒曜石を交換する人たち
石井礼子氏画 国立歴史民俗博物館提供



地形図：国土地理院地図発行（陰影起伏図）に加筆して作成

図7：主要石材分布図（池谷・佐藤 2020 を参考に作成）

3 日本で最初の旧石器時代国指定史跡

～休場遺跡～

① 休場遺跡とは？

休場遺跡は1960年頃に、当時の旧石器時代遺跡探索ブームの中、地元の中学生によって発見された遺跡で、愛鷹山南麓の中腹に位置しています。1963年に沼津女子商業高等学校（現・加藤学園高等学校）、1964年に明治大学及び沼津女子商業高等学校が発掘調査を行ったところ、黄褐色火山灰層の中から旧石器時代の炉跡が2基、炉跡の周辺から細石刃・細石核が1,000点以上発見されました。

さらに、炉の中に残っていた木炭を放射性炭素年代測定*で調べた結果、旧石器時代末期にあたる約17,000年前の遺跡であることが分かっています。

この休場遺跡の発見により、細石器が主体となる旧石器時代末期の様相がより一層明らかとなりました。

このことから考古学研究史上における休場遺跡の重要性が認められ、1979年1月に旧石器時代の遺跡としては初めて国の史跡に指定されました。



図8：休場遺跡 位置図

沼津市ホームページより転載・加筆修正



細石器

細石核

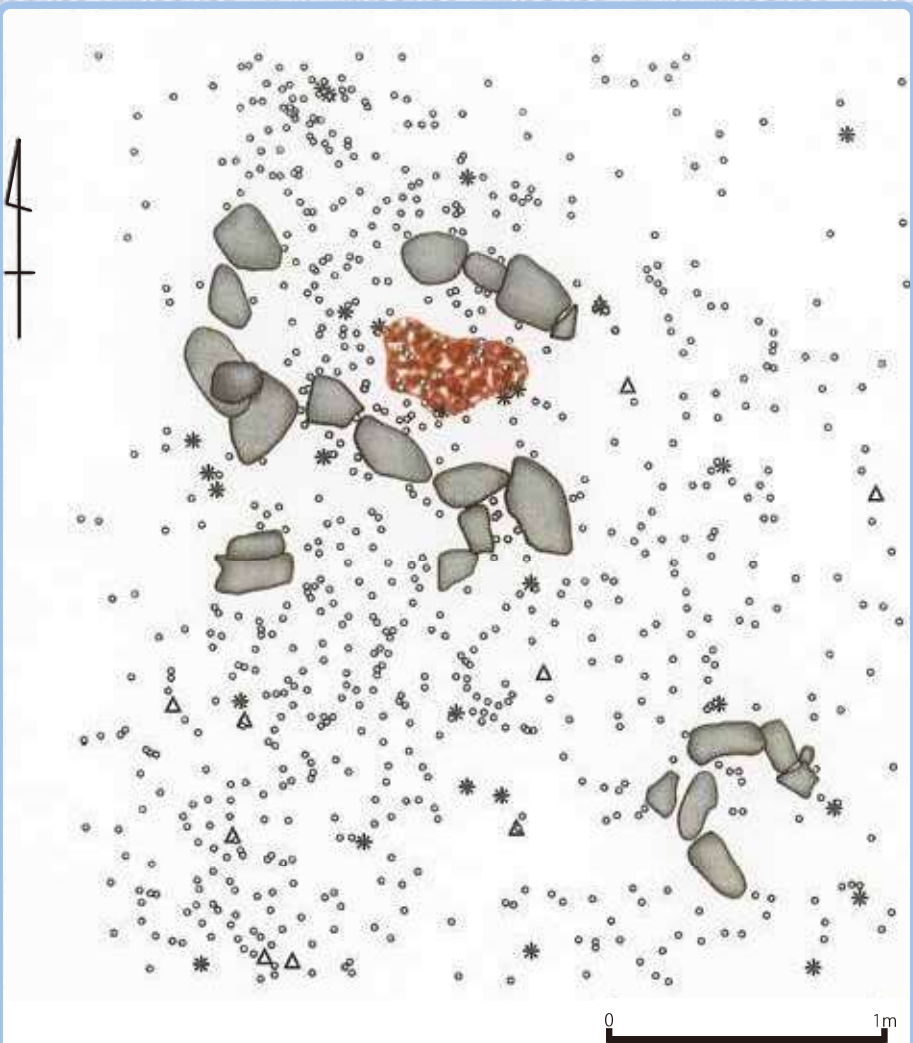
◆ 休場遺跡出土 細石器・細石核

沼津市教育委員会蔵



休場遺跡 石囲炉

明治大学博物館提供



- 焼土
- * 細石核
- その他の石器
- △ 細石刃・打面調整剥片

図9: 休場遺跡の炉と遺物出土状況

沼津市2005「沼津市史 通史編 原始・古代・中世」より転載

②休場遺跡の価値

休場遺跡の発掘成果の中でも、特に注目されるのは、特徴的な形状の細石核と炉跡の発見です。

休場遺跡から発見された角錐形・角柱形をした細石核は長崎県野岳遺跡のものとともに「野岳・休場型」という名前で、旧石器時代に見つかる細石核を観察する際の基準の石器に認定されています。この形状の石核は北海道を除く日本列島全域で広く使われていましたが、特に関東以西で多く見つかっています。

日本の旧石器時代遺跡から明らかな炉跡が発見されたのは、休場遺跡が初めてです。これは「石囲炉」（図9）と呼ばれる炉で、180cm×100cmの範囲に河原石14個で囲んだものと、径50cmの範囲に河原石を7個で囲んだものの2つが見つかっています。炉の近くで石器が特に多く見つかることから、人々が煮炊きをするなどして生活していたことが分かります。

移動生活を基本とする旧石器時代において、石の調達など設置に時間のかかる石囲炉の使用は珍しく、縄文時代の定住生活への変化を考える上でとても重要な事例です。

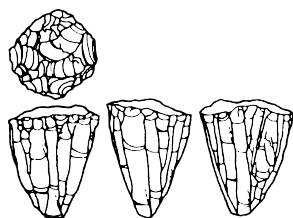


図10:野岳・休場型細石核
旧石器文化談話会2007より引用



◆休場遺跡と同時期に使用された石器
(細石器・細石核)

にしほら 西洞遺跡(b-1)出土 沼津市教育委員会蔵



◆休場遺跡と同時期に使用された石器(細石器・細石核)

がんごうじ 願合寺A遺跡出土 三島市教育委員会蔵

③ 休場遺跡と同じ頃に使われた石器

旧石器時代の最終段階にあたる休場遺跡が作られた時期の地層は休場層と呼ばれています。

愛鷹・箱根西麓の休場層初期段階ではナイフ形石器が使用され、徐々に尖頭器じょじょう せんとうの使用が増え、休場層の上部には、休場遺跡で見つかるような細石器類こいしかりと同種のものが多いの遺跡で使われるようになっていきます。

狩猟のための道具の変遷過程へんせん くれんが分かる休場層は、旧石器時代の人々の試行錯誤しこう かくごと当時の暮らしの工夫を現代の我々に伝えてくれます。



◆ 拓南東遺跡 出土石器(尖頭器)
沼津市教育委員会蔵



石核

細石核

細石核

◆ 観音洞G遺跡 出土石器
(細石核・石核)
三島市教育委員会蔵



◆ 山中城跡三ノ丸第1地点 出土石器
(細石器・細石核)
三島市教育委員会蔵

おわりに

愛鷹・箱根西麓の旧石器時代についておわかりいただけただしょうか？

日本で最古に近い石器が見つかっている井出丸山遺跡や、旧石器時代では珍しい陥し穴をたくさん使って狩りをしていた初音ヶ原遺跡、旧石器時代の遺跡中、全国ではじめて国指定史跡になった休場遺跡など、日本を代表する遺跡が私たちの身近にあります。

愛鷹・箱根西麓は、静岡県内においても特に旧石器時代の遺跡が集中している地域です。それは、寒冷期の旧石器時代の日本においては温暖な気候であった両山麓が、当時の人々にとって非常に快適な場所であったからといえます。

過酷な気象条件の中、安住の地を求めて愛鷹・箱根西麓へたどり着き、周辺環境に合わせて石器と暮らしを変化させていった人々の姿を少しでも感じていただければ幸いです。

石器等掲載資料一覧

掲載頁	遺跡名	資料名	点数	所蔵
6頁	中見代第Ⅰ遺跡	叩石	1	沼津市教育委員会
〃	〃	局部磨製石斧	4	〃
〃	井出丸山遺跡	台形様石器	4	〃
〃	〃	石錐	1	〃
〃	〃	削器	1	〃
〃	〃	剥片類	2	〃
7頁	小坂上北遺跡	台形様石器	1	〃
〃	測ヶ沢遺跡	〃	1	〃
〃	山中城跡三ノ丸第一地点	尖頭器	12	三島市教育委員会
〃	〃	ナイフ形石器	14	〃
〃	山中城E遺跡	ナイフ形石器	17	〃
8頁	初音ヶ原遺跡	ナイフ形石器	34	〃
〃	測ヶ沢遺跡	細石器	12	沼津市教育委員会
〃	〃	細石核	47	〃
〃	井出丸山遺跡	ナイフ形石器	4	〃
〃	〃	削器	2	〃
〃	〃	石核	1	〃
〃	〃	細石核	1	〃
〃	〃	剥片類	4	〃
〃	〃	叩石	2	〃
11頁	初音ヶ原遺跡	剥片	1	三島市教育委員会
〃	測ヶ沢遺跡	ナイフ形石器	2	沼津市教育委員会
〃	〃	楔形石器	1	〃
〃	〃	剥片類	6	〃
〃	〃	石核	3	〃
14頁	休場遺跡	細石器	49	〃
〃	〃	細石核	6	〃
16頁	西洞遺跡	細石器	6	〃
〃	〃	細石核	3	〃
〃	願合寺A遺跡	細石器	20	三島市教育委員会
〃	〃	細石核	6	〃
17頁	拓南東遺跡	尖頭器	19	沼津市教育委員会
〃	観音洞G遺跡	石核	1	三島市教育委員会
〃	〃	細石核	3	〃
〃	山中城跡三ノ丸第一地点	細石器	27	〃
〃	〃	細石核	8	〃
		計	326	

用語解説

【石器】

局部磨製石斧：石を磨いて刃部を作り出した石器。縄文時代のものとは違い、刃の部分しか磨かれていないことが多い。木の伐採や加工のほか、皮の加工にも使われたと考えられている。

ナイフ形石器：旧石器時代を代表する石器のひとつ。剥片（原石から石器を作るために割った石の破片）を素材にして、部分的に刃潰し加工をして、鋭利な刃や先端を作った石器。動物に突き刺して使ったり、モノを切ったりするのに使われたと考えられている。

尖頭器：槍先形尖頭器、石槍ともいう。石の両面もしくは片面を割り、先端を尖らせた石器で、投げ槍や手持ちの槍の先端として使われたと考えられている。

台形様石器：平面形が台形やそれに近い形をした石器。柄の先端につけて動物に突き刺して捕まえるのに使われたと考えられている。

細石器（細石刃）：長さ1～数cm、幅数mm～1cm、厚さ1～2mm程度の極小の石器。骨や木、角などに溝を掘り、数個をはめ込んで使われたと考えられている。切れ味を失った部分のみを交換することで使用できるため、材料の節約につながったと考えられている。

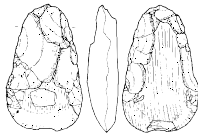
搔器：剥片の端部を細かく割り、刃を作り出した石器。分厚い刃部で、動物の皮についた脂肪を掻き取るのに使われたと考えられている。

削器：剥片の縁辺を細かく割り、刃を作り出した石器。木などを削る時に使われたと考えられている。

彫器：彫刻刀形石器などもよばれる石器。木や骨、角などに溝を掘るために使われたと考えられている。

叩石：敲石、槌石、ハンマーストーンともいう。石や骨などをたたき割る時や加工するときに使われると考えられている。

台石：石器を作る時に地面において使われた石の塊。台石に石をぶつけて割る方法や台石に石を置いて、上から叩石でたたいて剥片を作るといった使われ方をしたと考えられている。



局部磨製石斧
(清水柳北遺跡)



台形様石器
(小坂上北遺跡)



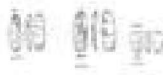
尖頭器
(中見代第1遺跡)



叩石
(中見代第1遺跡)



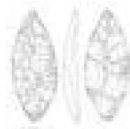
ナイフ形石器
(山中城E遺跡)



細石器（細石刃）
(西河遺跡)



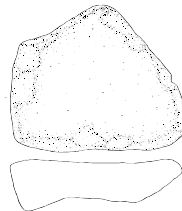
彫器
(中見代第1遺跡)



尖頭器
(山中城跡三之丸第一地点)



搔器
(中見代第1遺跡)



台石
(小坂上北遺跡)

用語解説図版①

(実測図は各種報告書から加筆・修正)

石錐：剥片の一部分を細く尖らせた石器。棒につけたり手に持ったりして、皮などに穴を開けるために使われたと考えられている。

剥片：原石から石器を作るために割った石の破片。石器の多くが剥片を素材にして作られる。

楔形石器：平面形は四角形をしているものが多い。地面に置いた石と手に持った石とで挟むようにして割る衝撃で出来た細かな階段状の割れが特徴の石器。クサビのような形をしているが剥片を取るための石核などとして使われたと考えられている。

細石核（細石刃核）：細石刃（細石器）を割り取った石核。各地方で割り方に独特の技法がある。

石核：石器の素材となる剥片を剥がした後に残された石の塊。石をそのまま割っただけの石核と縦に長い剥片（石刃）を剥がした石刃核がある。

【石材・その他】

スコリア：火山岩の一つ。マグマが冷えて固まってきた岩石。噴出時の急激な圧力の減少でマグマ中のガスが抜けたことにより生じたたくさんの気孔をもつ。白色～淡色のものを軽石、暗褐色～黒色のものをスコリアと呼ぶ。

黒曜石：火山岩の一つ。マグマが急速に冷やされてできたガラス質の岩石。半透明で光沢があり、黒色のものが多い。打撃をくわえると、鋭い割れ口が得られる。

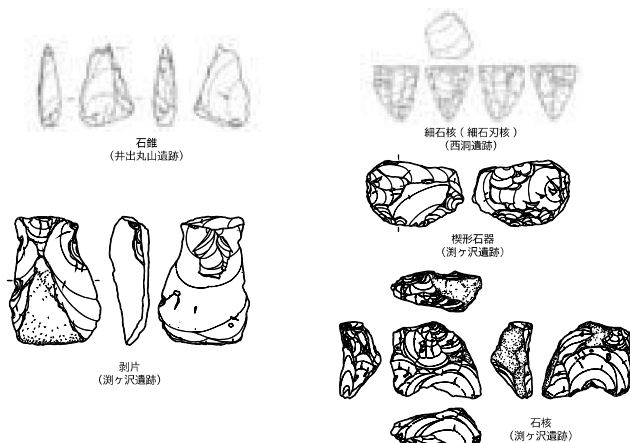
凝灰岩：堆積岩の一つ。火山灰の粒子が堆積し、固まってきた岩石。基本的に軽くてやわらかいが、熱水などの影響で硬くなるものもある。

安山岩：火山岩の一つ。マグマが冷えて固まってきた岩石で、日本で最も多く見られる。白色・黒色の大きな結晶と灰色の小さな粒子から構成される。かたく、耐久力が強い。

ホルンフェルス：変成岩の一つ。砂岩や泥岩が高温のマグマと接することにより生成された岩石。

下呂石：火山岩の一つ。岐阜県下呂市湯ヶ峰で産出した岩石。マグマが急速に冷やされ得る。鋭く割れるため、旧石器時代～弥生時代にかけて長く石器の素材として使用された。

放射性炭素年代測定法：動植物の体内に「炭素 14」という放射性物質がどのくらい残っているかを測り、その結果をもとにその動植物やそれらが残っていた土層が今から何年くらい前のものなのか調べる方法。



用語解説図版②

(実測図は各種報告書から加筆・修正)

参考文献

《発掘調査報告書》

- 『土手上・中見代第2・第3遺跡発掘調査報告書』（沼津市教育委員会、1988年）
『清水柳北遺跡発掘調査報告書』（沼津市教育委員会、1989・1990年）
『中見代第1遺跡発掘調査報告書』（沼津市教育委員会、1989年）
『五輪・観音洞・元山中・陰洞遺跡』（三島市教育委員会、1994年）
『山中城跡三ノ丸第一地点』（三島市教育委員会、1995年）
『拓南東遺跡発掘調査報告書』（沼津市教育委員会、1998年）
『土手上遺跡（d・e区-1）発掘調査報告書』（沼津市教育委員会、1997年）
『初音ヶ原遺跡』（三島市教育委員会、1999年）
『西洞遺跡（b区—1）発掘調査報告書』（沼津市教育委員会、1999年）
『西洞遺跡（b区—2）発掘調査報告書』（沼津市教育委員会、2000年）
『西洞遺跡（c・d区）発掘調査報告書』（沼津市教育委員会、2002年）
『井出丸山遺跡発掘調査報告書』（沼津市教育委員会、2011年）
『願合寺A遺跡』（三島市教育委員会、2014年）
『刈ヶ沢遺跡・長坂遺跡・小坂上北遺跡・土橋第Ⅱ遺跡・土橋第Ⅲ遺跡・井戸川遺跡・井戸川西遺跡・赤野西遺跡』（沼津市教育委員会、2014年）
『山中城D遺跡・山中城E遺跡』（三島市教育委員会、2017年）
『台崎A遺跡』（三島市教育委員会、2018年）

《その他参考文献》

- 杉原荘介・小野真一「静岡県休場地遺跡における細石器文化」（『考古学集刊』3-2号所収、1965年）
大塚初重・戸沢充則・佐原真編『有斐閣選書 日本考古学を学ぶ（2） 原始・古代の生産と生活』（有斐閣、1979年）
加藤晋平・鶴丸俊明著『図録 石器の基礎知識』I・II先土器（上・下）（柏書房、1980年）
小野有五・五十嵐八枝子著『北海道の自然史 氷期の森林を旅する』（北海道大学図書刊行会、1992年）
『静岡県考古学会シンポジウム9 愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年 予稿集』（静岡県考古学会、1995年）
白石浩之著『日本史リブレット1 旧石器時代の社会と文化』（山川出版社、2002年）
『平成14年度特別展図録 世田谷最古の狩人たち—3万年前の世界』（世田谷区立郷土資料館、2002年）
『沼津市史 資料編 考古』（沼津市、2002年）
『財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所設立20周年記念事業公開シンポジウム 愛鷹山をかけためぐった旧石器人 今、よみがえる3万年前の世界』（静岡県埋蔵文化財調査研究所、2004年）
『沼津市史 通史編 原始・古代・中世』（沼津市、2005年）
旧石器文化談話会編『旧石器考古学辞典』3訂版（学生社、2007年）
池谷信之著『黒曜石考古学—原産地推定が明らかにする社会構造とその変化』（新泉社、2009年）
工藤雄一郎著『旧石器・縄文時代の環境文化史：高精度放射性炭素年代測定と考古学』（新泉社、2012年）
小田静夫著『考古調査ハンドブック9 旧石器時代』（ニューサイエンス社、2014年）
高橋直樹・大木淳一著『全農教 観察と発見シリーズ 石ころ博士入門』（全国農村教育協会、2015年）
堤隆・ハヶ岳旧石器グループ編『矢出川 日本列島で最初に発見された細石刃石器群の研究』（信毎書籍出版センター、2015）
『第29回考古学研究会東海例会 東海中西部の旧石器編年とその特質』（考古学研究会東海例会、2017年）
『氷河期からのたより—野辺山高原に生きた旧石器のハンターたち』（南牧村教育委員会、2018年）
佐藤宏之著『ヒスカルセレクション 考古1 旧石器時代 日本文化のはじまり』（敬文舎、2019年）
国立歴史民俗博物館編『わくわく探検 れきはく日本の歴史1 先史・古代』（吉川弘文館、2019年）
池谷信之・佐藤宏之編『愛鷹山麓の旧石器文化』（敬文舎、2020年）
西本昌司著『観察を楽しむ 特徴がわかる 岩石図鑑』（ナツメ社、2020年）
森先一貴著『日本列島四万年のディーブヒストリー—先史考古学からみた現代—』（朝日新聞出版、2021年）
工藤雄一郎編『復元イラストでみる! 人類の進化と旧石器・縄文人の暮らし』（雄山閣、2022年）
堤隆著『氷河期を生き抜いた狩人 矢出川遺跡（改訂版）』（新泉社、2022年）

富士山かぐや姫ミュージアム

富士市伝法 66-2 TEL.0545-21-3380

開館時間：4月～10月 午前9時～午後5時、
11月～3月 午前9時～午後4時30分

休館日：月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日、
年末年始（12月29日～翌年1月3日）



沼津市明治史料館

沼津市西熊堂 372-1 TEL.055-923-3335

開館時間：午前9時～午後4時30分

休館日：月曜日（祝日の場合は開館）、
祝日の翌日（土曜日・日曜日を除く）、
毎月最終平日、年末年始（12月29日～翌年1月3日）



沼津市戸田造船郷土資料博物館

沼津市戸田 2710-1 TEL.0558-94-2384

開館時間：午前9時～午後4時30分

休館日：水曜日、祝日の翌日、
年末年始（12月29日～翌年1月1日）



沼津市歴史民俗資料館

沼津市下香貫島郷 2802-1（沼津御用邸記念公園内）
TEL.055-932-6266

開館時間：午前9時～午後4時

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館）、
祝日の翌日（土曜日・日曜日を除く）、
毎月最終平日、年末年始（12月29日～翌年1月3日）



三島市郷土資料館

三島市一番町19番3号（楽寿園内）

TEL.055-971-8228

開館時間：4月～10月 午前9時～午後5時、
11月～3月 午前9時～午後4時30分

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）・
年末年始（12月27日～1月2日）

